

令和5年5月29日  
経済産業部  
産業連携交流推進課  
工業・ものづくり・雇用促進課

旧池尻中学校跡地施設活用事業（新たな産業活性化拠点構築事業）  
に係る意見交換会の開催結果及び進捗状況について

1 主旨

旧池尻中学校跡地施設活用事業（新たな産業活性化拠点整備事業）における本年1月の運営事業候補者決定以降の地域住民との意見交換会の概要、及び事業者とのこれまでの協議を踏まえた施設の方向性について報告する。

2 地域住民説明会・意見交換会の開催結果概要について

(1) 開催日時

- ①令和5年3月27日（月） せたがやがやがや館
- ② 〃 3月28日（火） オンライン開催

(2) 参加者数

- ①15名
- ②約10名

(3) 主な意見

- ・セキュリティ、プライバシー、騒音、ごみ、深夜の安全対策、施設周辺での駐車待機等について配慮すべき。
- ・校庭に設置する防球フェンスの仕様や運用についてはよく協議すべき。
- ・産業のみならず文化・芸術振興にも門戸を開いて欲しい。
- ・施設にはいつから入居できるか。創業の区内定着に向けた対応を検討すべき。
- ・継続的に対話の場を設定すべき。 等

3 本事業の方向性（詳細は別紙参照）

本事業は、暮らしを支え豊かにする生活関連産業を中心とした区内の既存産業の再活性化を図ることに加え、新しい価値を創出する人材を育成・確保し、新たなチャレンジの場を提供することで、区内産業のイノベーションを創出・加速していくことを目的とする。

今後の方向性の詳細の検討にあたっては、下記の事業者提案を基に協議を重ねながら具体化していく。

(1) 事業者提案

今回の事業者の提案は、施設の間口を広げ、心理的な敷居を低くすることで、明確な目的を有しない方や起業等に直接的な関連の薄い方も気軽に訪れてもらうことができるオ

オープンな施設とすることをベースとする。これにより日常的な賑わいを創出し、賑わいが更に多様な人を呼び込む好循環の仕組みを作ること、イノベーションの源泉となる多様な交流や気づきの機会を生み出す。

多様な人が集まる魅力的な循環が創出されることで、サービス提供側のコンテンツ充実にもつながるとともに、イベント集客や広告等のプロモーションコストを最小限とできるなど施設運営の効率化への寄与や、安定した収益を背景とした施設利用時の利用者還元へも繋がると期待される。安定した運営を確保することで、有意義なコンテンツへの注力や必要な投資等を通じて成果指標の早期達成にも寄与するなど、多様な効果が見込まれるものとなっている。

#### (計画の概要)

##### ①校舎棟 1階（飲食店・物販店、その他学校）

###### ア．商業、飲食店区画

誰もが気軽に訪れ利用できる機能を設けることで、間口を広げたオープンな施設とし、多様な人を呼び込む。これまでなかったコミュニティの創出や個々の滞留時間の増加、化学反応を生み出す偶発的で多様な出会いと交流の機会を創出する。

また、職業体験など身近な子どもの学びの実践の場としても活用する。

###### イ．事業者の学びと実践の区画

チャレンジショップ機能など理論と実践の両面から学べるエリアとする。

##### ②校舎棟 2階（事務所、その他学校）

###### ア．コワーキングスペース

働く場としての活用に加え、起業・創業を目指す起業家のワークスペースとして活用する。交流を促す仕掛けを通じて、個々の事業の成長の支援と新たな発想や取組が生まれやすい環境やリスクリングができる環境を整える。

###### イ．学びの場

常設の学びの場を設け、子どもたちの主体性や創造性を活かし、産業と連携した学びを提供していく。

##### ③校舎棟 3階（事務所、その他学校）

###### ア．シェアオフィス等

事業者やスタートアップ企業の活動の場として整備を行う。様々な事業者との繋がりや更なる構築や、事業を軌道に乗せる活動を後押しする。

##### ④体育館棟（その他学校）

###### ア．エントランスゾーン

多目的カフェ、ブックラウンジ等を併設し、学びの場の顔として整備する。

###### イ．アリーナ

従来のスポーツ利用を中心に、プロチームとの共創によるイベントや教室のほか、展示会場としての利用やアートや舞台などの文化的な活動も実施できる場として整備する。

#### ウ. その他区画

現在のふれあいルームは現状の利用を踏まえて継続を検討し、その他の区画は多様な利用が可能なよう整備していく。

#### ⑤校庭

地域住民と事業者の交流の場としてキッチンカー等の移動販売や、飲食・物販などのトライアル販売スペースを設置すること等で、起業・創業やスタートアップ支援を行う。また、新たなプロダクトやサービスの開発に関するテストマーケティングやテクノロジーを活用した社会実験や社会実証の場としての活用、その他地域のコミュニティやイベントの場として多様な活用をしていく。

### (2) 区の考え方と方向性

本計画は、当初区では想定されていなかった校舎棟1階を飲食・物販エリアとすることをベースとして構築することで、施設運営や利用者還元などの観点からも効果が高くなる（下記参照）とともに、区が目指す地域経済活性化の目的実現に向け効果が高いと考えられる。事業者選定審査委員会においてもその効果や意義について高い評価を得たことから、本提案をベースとした施設整備を実現すべく検討を進めていく。

#### <事業者提案による追加的な効果>

- ・ 多数の来場者の確保  
(起業や産業に関連の薄い方も含めて、より開かれた利用に繋がる)
- ・ イノベーション創出への寄与  
(賑わいが更に多くの来場者を呼び込む好循環がイノベーションの源泉となる交流や気づきの機会を増加させる)
- ・ サポートやコンテンツの充実  
(ニーズが集積することで、サービス提供側のメリット向上につながり、サービスやサポート、コンテンツの質・量の充実に寄与)
- ・ 若年層への起業家教育への波及寄与  
(利用者層の裾野の広がりや集まる起業家の多様化による教育機会の増加、近くに起業家のいる環境がより充実することによる教育効果への寄与)
- ・ 地域コミュニティ活性化への寄与、裾野の広がり  
(自発的な活動や企画を後押しする仕組みにより、関係人口や活動が増加・活性化)
- ・ KPI の早期達成  
(収益面の運営安定により、成果に直結するコンテンツへの注力や投資がより促進)
- ・ 施設運営の効率化  
(日常的な集客がイベントや広告等プロモーションコストの低廉化に寄与するとともに、テナント等の収支向上による全体収支の向上)

等

#### 4 今後の進め方

今後、上記の方向性を基に詳細な設計やテナント等の具体的な協議を進めていく。

また、事業者提案を踏まえた追加的な躯体用途変更や区画変更箇所の拡大に伴う施設内部の法令対応等に伴い必要となる工事については、この間の資材高騰、人件費高騰等に係る状況等も踏まえた検討を進め、必要に応じて補正予算の計上も検討する。

#### 5 今後のスケジュール（予定）

これまで開設予定は令和6年1月以降としてきたが、事業者との協議に伴う設計の変更・複雑化や工事量の増加、社会経済情勢の影響等を踏まえ、現時点における開設時期を令和6年末と見込んでいる。なお、協議や工事の進捗等を踏まえ、スケジュールについては適宜報告を行う。

令和5年 6月～	校舎・体育館・校庭の詳細設計
12月頃～	用途変更工事、校庭外構工事、内装工事等
令和6年 9月頃	基本協定及び土地・建物賃貸借契約、テナント工事等
12月末	施設運営開始

(参考) これまで提示してきたスケジュール

令和5年 4月以降	基本協定及び土地・建物賃貸借契約の締結 校舎用途変更・内装工事、校庭外構工事等
令和6年 1月以降	施設運営開始

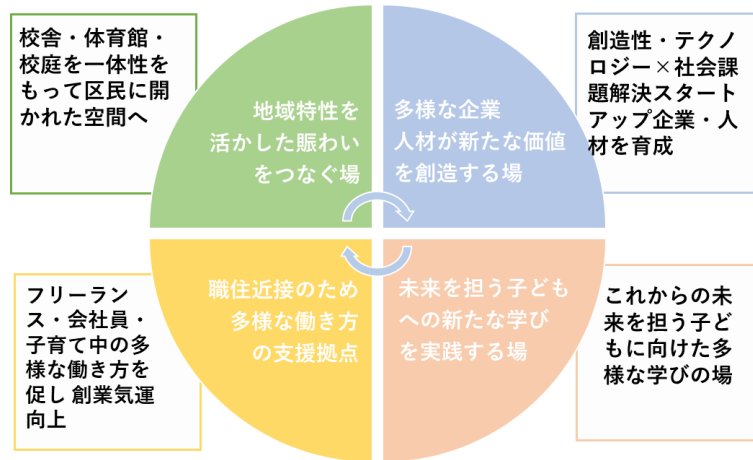
# 旧池尻中跡地活用事業（新たな産業活性化拠点構築事業）について

- 旧池尻中は2004年に廃校後、校舎を活用し「世田谷ものづくり学校」として開設。起業・創業支援や地域との交流など、学校跡地活用の好事例として全国的にも注目。一方、オープンから15年以上が経過し、新たな変化に対応する必要性から、耐震補強工事を契機に2022年5月に閉館。
- コンセプトを刷新した上で、区内産業活性化や新しい価値を創出する人材育成など、区内産業のイノベーションを創出・加速し、地域経済の持続的な発展を目指す産業活性化拠点として2024年の開設を目指す。

## ＜これまでの経緯＞

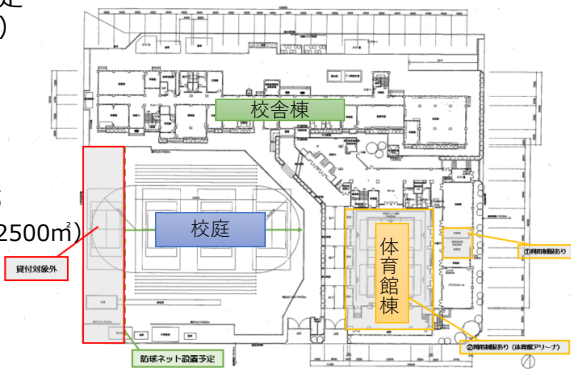
2004年	「世田谷ものづくり学校」開設
2021年2月	新たな活用に向けた基本コンセプト策定
2021年7月	旧池尻中学校跡地活用に関するサウンディング型市場調査
2022年5月	「世田谷ものづくり学校」閉館
7月～	運営事業者公募
8月～	耐震補強工事、中長期保全改修工事
2023年1月	運営事業候補者決定
2024年	新施設開設（予定）

## ＜基本コンセプト（抜粋）＞



## ＜施設概要＞

所在地：世田谷区池尻 2 - 4 - 5  
敷地面積：約9,400㎡（内校庭：約2500㎡）  
延床面積：約6,200㎡（内訳）  
校舎棟：約3,400㎡  
体育館棟：約2,800㎡



## ＜拠点の主な機能＞

<h3>既存産業の活性化支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ハンズオン(伴走型)支援</li> <li>■ 第二創業の支援スペース</li> <li>■ 一般入居ブースの整備</li> </ul>	<h3>起業・創業の支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 創業・スタートアップ支援スペース</li> <li>■ 成長支援する専門人材配置</li> <li>■ アクセラレータープログラム</li> <li>■ 区内定着支援</li> </ul>
<h3>産業と連携した学びの支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 若い世代の学びの支援</li> <li>■ 事業者等のリスキリング</li> </ul>	<h3>区民に開かれた場</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ テストマーケティングや交流の場</li> <li>■ 地域コミュニティの拠点</li> </ul>



# 旧池尻中学校跡地施設活用事業

(新たな産業活性化拠点構築事業)

## の方向性

(提案書より抜粋)

100年に1度の変革期でもあったコロナ禍を経て、偶然時を同じくして訪れた旧池尻中学校のリニューアルに際して、本事業をこれからの世田谷区や、そこで営まれる商いや暮らしをアップデートし、できる限り実験、体現していくことを目的とする。

特に、コロナ禍でも判明した通り、従前、世田谷区の強みや“らしさ”の源泉でもあった店舗ビジネスをはじめとする各種（対面）サービス業が大きな打撃を受け、改めて、その良さは引き継ぎながら、DX対応等弱みを改善することが早急に必要められていることが明らかに。すでに不可避となっている現況への対応を超え、むしろこの機会を前向きなものとして捉えて、さらに地域社会課題をも解決していくことができるようなソーシャルビジネスやSDGs対応を進めていくべく、とりわけ暮らしを支え豊かにする生活関連産業を中心に、大小さまざまな規模の企業や起業家に新たなチャレンジの場を提供し、またそれに付随する新たな需要やライフスタイルを発信、喚起していくことを目指す。

### 支援型開発（サーバントデベロップメント）



世田谷区基本コンセプトを実現するために「下北線路街」における事業方針である“支援型開発”の親和性が高いと考える

下北線路街

開発・運営事業者が様々な支援を行うことで  
新しい事業やコミュニティを創出し  
区内の持続的な活性化に繋げる

## 2. 事業コンセプト



(仮称)

# 世田谷village

みんなの”やりたい”を集める実験的コモンズ





プログラム

# 世田谷village



地域特性を活かした  
賑わいをつなぐ場

ものづくり体験  
マルシェ  
共助  
マインドフルネス  
実証実験  
コモンズ

アントレプレナーシップ  
五感 レジヨエミリア  
STEAM学習  
オンライン学習  
想像力を育む

未来を担う子どもへの  
新たな学びを実践する場

なりわい  
サードプレイス 生きがい  
プロボノ 異業種連携 クラウドソーシング  
複業 ワークシェア

職住近接のため  
多様な働き方の支援拠点

DX推進  
企業/創業支援  
リスクリング  
LABO機能  
新規事業創出

多様な企業人材が  
新たな価値を創造する場



商業区画

#### 商業区画（飲食店舗/物販店舗）

地産地消、発酵、薬膳、ヴィーガン対応など、これからの世田谷区のライフスタイルを象徴するようなテナントを中心に誘致を行う。ボーナストラックや下北線路街も含めた広域エリアへの出店希望者とのネットワークづくりを日常的に行っているため、そのなかからも本施設への出店希望を促すことが可能。本施設への出店から、区内複数店舗への展開や全国への展開につながっていく、モチベーション高い事業者に出店していただく予定。



チャレンジショップ

#### チャレンジショップ

1坪1万円程度の賃料かつ10坪程度のチャレンジショップ区画を用意し、施設内で行われる創業支援プログラムの参加者を中心に、出店内容のクオリティを担保しながら、初めてお店を持つための新規出店サポートを行う。チャレンジすることがゴールにならないよう、定着、安定のためのノウハウ、ネットワーク提供も行う。





スクール

#### スクール

子どもたちの主体性や創造性を大切にするレジョエミリアの考え方をベースに、安全を確保しつつ、できる限り多世代に開かれ、交わるかたちでの学びの場の提供を目指す。座学よりも体験を重視し、最新の理論やテクノロジーに触れるだけでなく、食、農、アート、デザインといった五感を育む経験を、最前線の実践者たちとともに探求し、年齢が上がるごとに、施設内での学びから地域・社会での実践により近いかたちでのプログラムへとステップアップが可能な体制を構築する。さらに、子どもたちへ学びを提供するだけでなく、子どもたちから大人が学ぶという観点を取り入れながら、大人にも新しい気づきや学びを得られる時間を提供する。



多目的カフェ

#### 多目的カフェ

お子さんやお年寄りから、障がいをお持ちの方まで、メニューや内装に配慮した、敷居の低いカフェ機能を用意。可変性のある家具、什器にしておくことで、イベントや展示会の時など、さまざまな利用ニーズに対応することが可能。

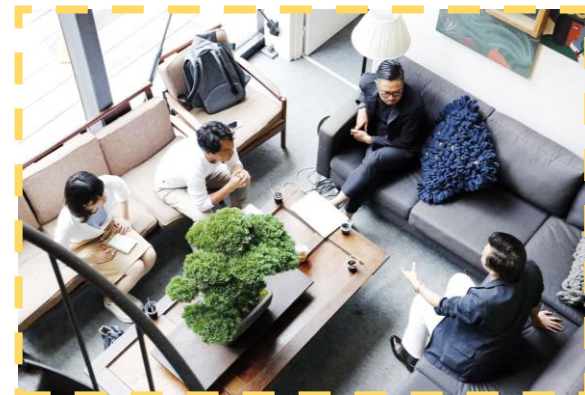




#### コワーキング

一般入居ブースだけでなく、第二創業やスタートアップ支援やリスキング教育の場として、さまざまなクリエイティブワーカーが働き、学び、つながることを積極的に促進する。

オンラインによるワークスタイルを支援する一方で、昨今特に、孤独になりがちな働き方に対し、ラウンジやシェアキッチンを用意することで、交流の選択肢を提供。世田谷区内の新たな才能の発掘だけでなく、大企業やVCをはじめとした協業相手や資金提供者、また国内外から各界の専門家を受け入れることで、新たなビジネス機会の創出へと繋げる。英語対応が可能なスタッフも配置し、国際的な多様性も意識する。



#### スモールオフィス

地域内産業の活性化を目指し、世田谷区内外、東京、日本全国、海外も含めた他のローカル企業の東京拠点としてリーシングを行う。

交流会やビジネスマッチングを促進し、1F・2Fの店舗やオフィス入居者をはじめとした区内事業者と積極的なコラボレーションを促す。

2Fのコワーキングからさらに事業のステージが進んだ企業による区内定着を目指したスモールオフィスとして、区内事業者のクリエイティブな拠点としても利用可能。





#### 体育館

体育館は施設全体のエントランス機能を担い、多様な方がくつろげる空間となるようブックラウンジを併設した心地よい空間を入口につくる。

また体育館アリーナなどは従来の一般の団体利用の貸出しの他、クラブハウスを設置して独自のコンテンツを運営し、スポーツやマインドフルネス、趣味などに応じたコミュニティづくりの支援を行う。

さらに、地域で活動するプロチームとの共創による各種教室やスポーツフェスなどを企画・運営し、スポーツを通じた人格形成や文化醸成などの多様性に富む学びの機会を提供する。また、展示会場などの利用や、アート展示、舞台、映画会、演奏会なども想定。



#### ブックラウンジ

本が人の居場所を作り、人を集める力を活用し、子どもからお年寄り、専門的な分野で活躍するビジネスマンやクリエイターまで、多様な人に良質なインプットとなるような本をラインナップしたラウンジ空間を展開する。

特徴的な書棚のテーマ設定やキュレーターを担う人材の配置と、**BONUS TRACK**にも入居する本屋 **B&B**の内沼晋太郎との協業のもと、本施設のメインエントランスとなる場所に、知的かつ温かなラウンジ空間、ロビー空間を用意する。



#### その他追加検討中プログラム

##### ○配信スタジオ

ケーブルテレビ番組制作事業者と連携し、多種多様なコンテンツを配信する。地域に知的、感覚的な刺激の提供を目指す。

##### ○Fab施設

ものづくりに気軽に取り組むことができるよう、DIY工具、ミシン等の道具や、木材や布等の簡単な素材提供も行う。

##### ○シェアキッチン

地域の飲食店も巻き込むかたちで、多世代で参加でき、調理方法の習得やレシピを教え合うようなコミュニティ型のシェアキッチン。



##### ○食品加工場（醸造含む）

地元の農産品を使ったメイドイン世田谷な商品を製造。軽度の障がいをお持ちの方など、サービス業主体とはまた違った働き方を提供可能。

##### ○都市型農園

生業的な農業だけでなく、耕作放棄地が増えている世田谷区ならではの、交流型、景観維持型の農園のあり方、継続方法を実験。

##### ○ランニングステーション

シャワーブースや貸しロッカーをはじめ、施設内外でスポーツをされる方が集うスペースに。ランニングクラブ等のクラブ活動も並行して展開。





広場

### 広場（校舎・校庭・体育館）

これまで一部の関係者・専門家・オフィス入居者による利用に限定されがちだった校舎に、周辺住民の生活を彩るような特色があり、日常的に利用しやすい各種小売店や飲食店を配置。また、建物入口に図書館のようなブックラウンジや、校舎内には幅広い利用者の受け皿となるような親子カフェのような業態を誘致することを計画しており、開かれたイメージに刷新することが可能な計画となる。

さらに広場化された校庭や体育館においては、世田谷パン祭りなどのイベント開催実績や三宿エリアを巻き込んだ取り組み実績が豊富な、三宿四二〇商店会の会長が代表を務めるオールドファッション（株）を中心とし、キッチンカー出店や、マルシェ開催を促すなど、事業者にとって新しい事業機会を創出しながら、生活者にとっては1日を通して居場所として豊かな時間を過ごせる工夫を随所に施す。

また、スタートアップや起業創業者、企業の社会実験・実証の場としての活用や周辺大学との連携など、地域社会と企業・大学の新たな起点・結節点として機能するような場となることを目指す。



### (1) 区民の暮らしを支える事業者の新たな取組の支援と交流の場

地域住民の日常的な買い物と、事業者の交流の場として、校庭を活用したキッチンカー・ショップモビリティ等の移動販売による「日替わり仮設商店街」の仕組みを構築する。また飲食・物販などのトライアル販売スペースを併設することで、スタートアップ起業の支援を行う。地域住民と事業者が交流する機会と空間を活用し、利用者へのヒアリングや参画事業者同士の情報交換の場、さらには区内の既存事業者を含め新たなプロダクトやサービスの開発に関するテストマーケティングの場の企画運営を実施する。



### (2) テクノロジーを活用した社会実証フィールド

三宿池尻エリアのまちづくり会社（設立準備中）と協業し、校庭・公園を始めとし周辺地域において、モビリティ企業や大学、地域の協力により、遊具開発、モビリティ、パークレットなどの社会実験を行う。

三宿四二〇商店会では既にその前例となるプロジェクトを行っており、本事業ではそうした商店会の実績とネットワークを活用し、地域の事業者・入居者との連携を拡張しながら、より地域に根差した新技術・新サービスの開発拠点としての機能を付与しつつ、地域事業者・入居者の開発や発展を支援する。

また、商店会が過去に行なったモバイル屋外家具の開発・展示、インクルーシブモバイル遊具展示の支援などの実績を活用し、多様性・可変性といった新しい価値を持つプロダクト・サービスのあり方、さらには広場という公共空間の新しい概念構築について、地域事業者・入居者とともに検討するプラットフォームの構築を行う。



### ①地域と連携した取り組み

校舎内の飲食店や菜園等と連携したアップサイクル商品の開発や、食品ロスを活用した肥料への活用などの循環型経済のモデル実証など、様々な企業・活動との連携によりサーキュラーエコノミーの実現を目指す。

### ②小田急電鉄（株）の取り組み

#### モビリティについて

次世代のモビリティ・ライフ「MaaS（Mobility as a Service）」の実現を目指し、テクノロジーを活用した交通サービスを展開をしている。

具体的には、MaaSアプリ「EMOT」の運営をはじめ、沿線にて自動運転やオンデマンド交通などの実証実験を進めており、運転士不足への備えや高齢者に対する自家用車移動以外の選択肢提供を目的とした二次交通の高度化に取り組んでいる。

本事業周辺エリアにおいても、交通利便性を高めるため、シェアサイクル等も含め、二次交通の高度化を検討していく予定である。



MaaSアプリ「EMOT」



#### 環境について

循環型経済のモデル実証など、様々な企業・活動との連携によりサーキュラーエコノミーの実現を目指し、ウェイストマネジメント事業「WOOMS」を展開している。

「WOOMS」では「“ごみ”のない世界へ。Beyond Waste」をビジョンに掲げ、資源・廃棄物に関わるテクノロジーを活用し効率化を図り、資源循環を高め循環型まちづくりに取り組んでいる。

2022年10月から12月まで、下北沢エリアで大手飲料メーカーや廃棄物処理業者と連携し、効率的な「ペットボトルの回収」の実証実験を行っている。今後は沿線エリアを中心に世田谷区内での事業展開も検討していく予定である。

### （3）地域の多様なコミュニティを育み街の賑わいを創出する多目的な公共空間

商店会や地域事業者と連携したイベントの企画運営及び、既存イベントの運営支援などを図り、地域住民が気軽に参加しながら情報や体験を通じて、新しい価値を多くの人と共有できる場の運営を行う。

#### 世田谷パン祭り

2日間で最大5万人の集客を誇る、12年続く地域最大のイベントである。

現在会場となっている世田谷公園、がやがや館、食糧学院、三宿四二〇商店会に加え、本施設（校庭及び体育館）も運営面のサポートを含めて参画していく。地域各団体との連携が深い実行委員会による運営に対して、施設として全面的に関わっていくことで、地域との連携を図る。

#### 三宿四二〇商店会との連携

地域活性化とコミュニティ形成支援のイベントを連携して開催する

- ・三宿さくらマルシェ（飲食）
- ・三宿十の市（物販）
- ・三宿夏祭り（体験）
- ・三宿あおぞら図書館（学習）
- ・三宿みちまちフェア（交通安全）



#### キネコ国際映画祭

サテライト会場やスピンオフ企画など、文化コンテンツの連携を目指す。

#### 地域の生産者・事業者を中心としたファーマーズマーケットの開催

ファーマーズマーケットと連動した企画・開発

他地域の自治体や生産者と連携した物産展や料理教室などの企画・運営

その他、（2）で前述した製品開発・実証実験においても、住民参加による生活者視点の開発を行うなど、新しい製品・サービス、新しい暮らし方にも積極的に住民が関与できる環境と体制を構築し、個々人の地域参加やコミュニティへの意識を高めるような事業展開を実施する。

### 既存地域活動との連携

商店会が定期開催している街の清掃活動を拡張し、環境問題をテーマとしたコンテンツと連動させ、環境活動・社会貢献への参画意識を向上させるプログラムを実施する。



### 地域連携によるフェーズフリーな場

毎年9月に行われる池尻小学校避難所運営訓練では多くの地域住民が参加しており、近隣のこどものひろば公園では防災意識を高めることを目的とした「三茶水かけ祭り」が開催されるなど、防災に関する関心の高いエリアである。

こうした地域の特徴を踏まえ、施設としても既存の取組みに積極的に関与していく。また、非常時の行動を平常時から体験し学ぶことを目的に、楽しみながらも防災・災害対応、人命救助などを学べるイベントやセミナーなどの実施を行ない、住民が主体的に地域を守り育てる環境形成を図る。



### 地域連携による多様な雇用機会の創出

日常清掃は地域の世田谷福祉作業所に委託することにより、地元地域で仕事が担われることを目指す。青鳥特別支援学校の生徒に実習の場として、窓の清掃を委託するなど地域連携も深めていく。

### （4）地域、個人の新たな活動や学びを後押しし、多様に活用できる公共空間

多様性を求める新しいライフスタイルが広まりつつある中、個々の暮らし方、働き方、学び方、遊び方を複合的に捉えた環境形成が求められる。本施設運営においては、ワークスペース、ラーニングスペースなどが個々に完結するのではなく、全ての環境が連動して利用者が自由に行き来できるような空間・しくみづくりを行う。

#### 多様なイベントの開催

（株）散歩社が運営するBONUS TRACKでは、毎週末イベントを開催している。本施設においても、食・本・植物・親子向け・福祉施設との連携など、さまざまなイベント、マーケットの開催を予定している。BONUS TRACKでは公募による出店・出品者の選出の実績があり、同様の方式により、より広くチャレンジャーを集めることが可能である。また商業性のあるイベントだけでなく、季節のお祭りのような地域貢献性の高いイベントも実施可能。

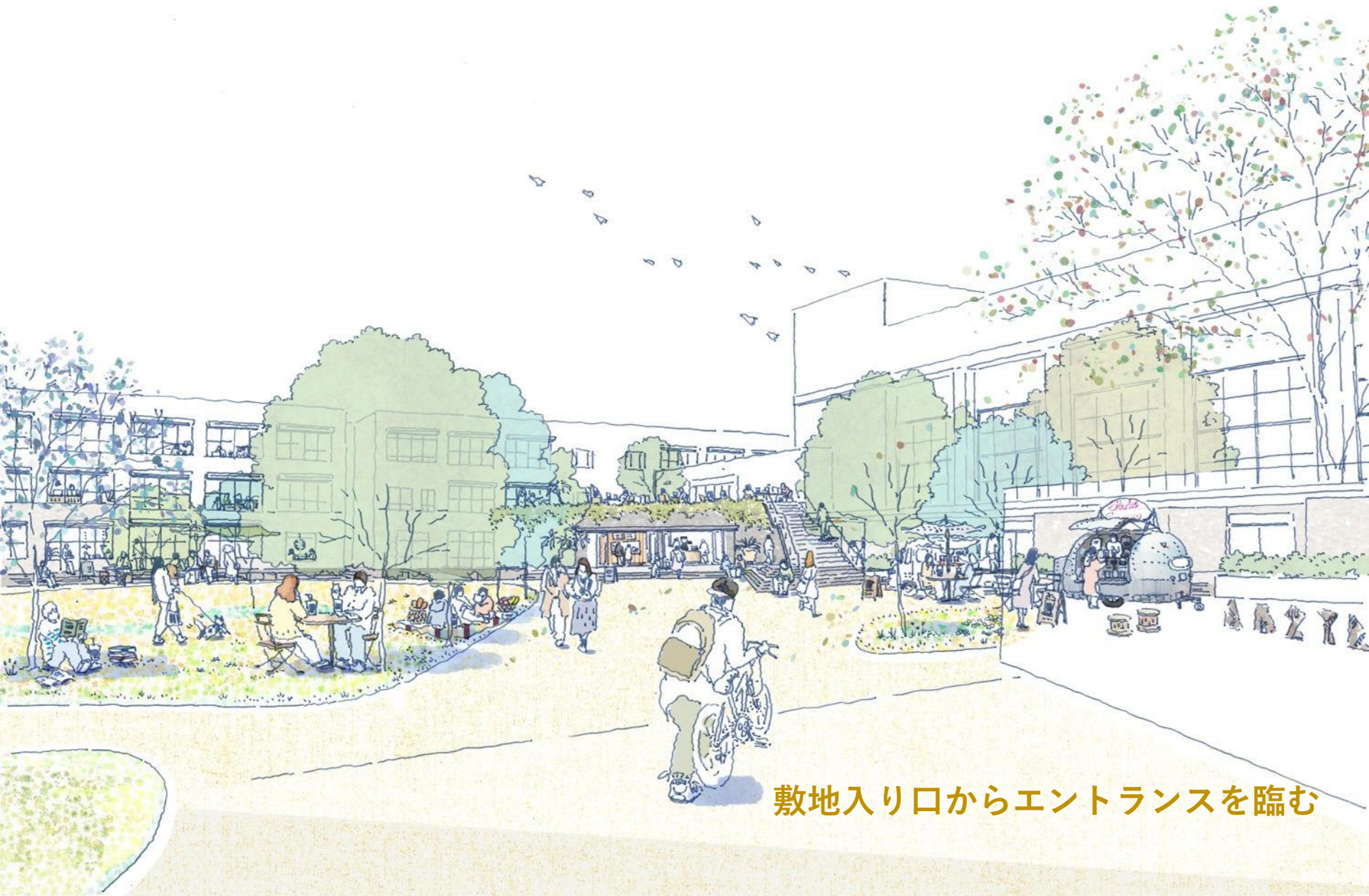


#### スポーツ・文化プログラムを通じたコミュニティの形成

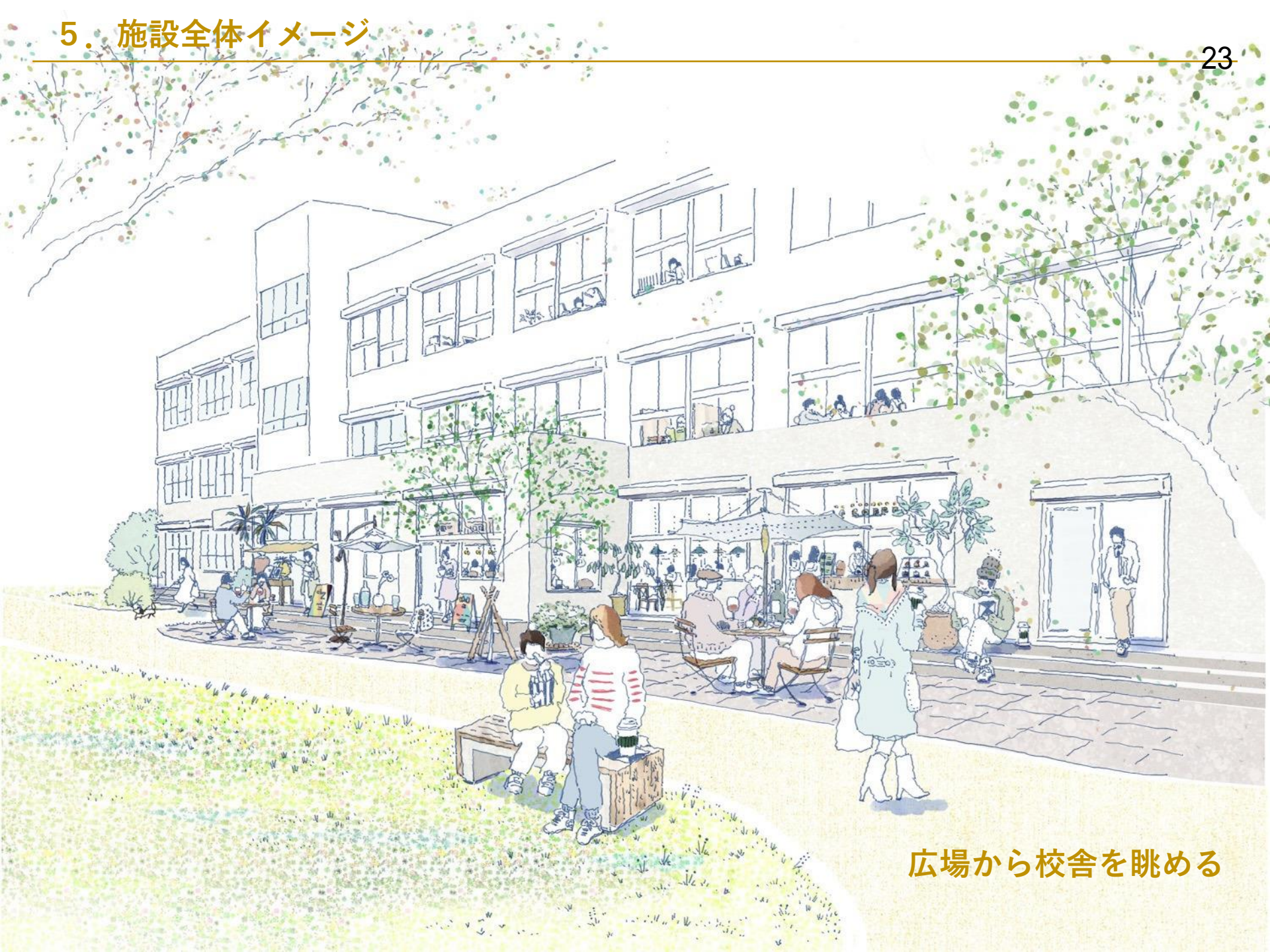
地域で活動するプロチームとの共創によるスポーツを通じた人格形成や文化醸成などの多様性に富む学びの機会の提供をする。

また、文化的プログラムとして、展示会やイベント、屋外でのワークショップなども企画していく。





敷地入り口からエントランスを臨む

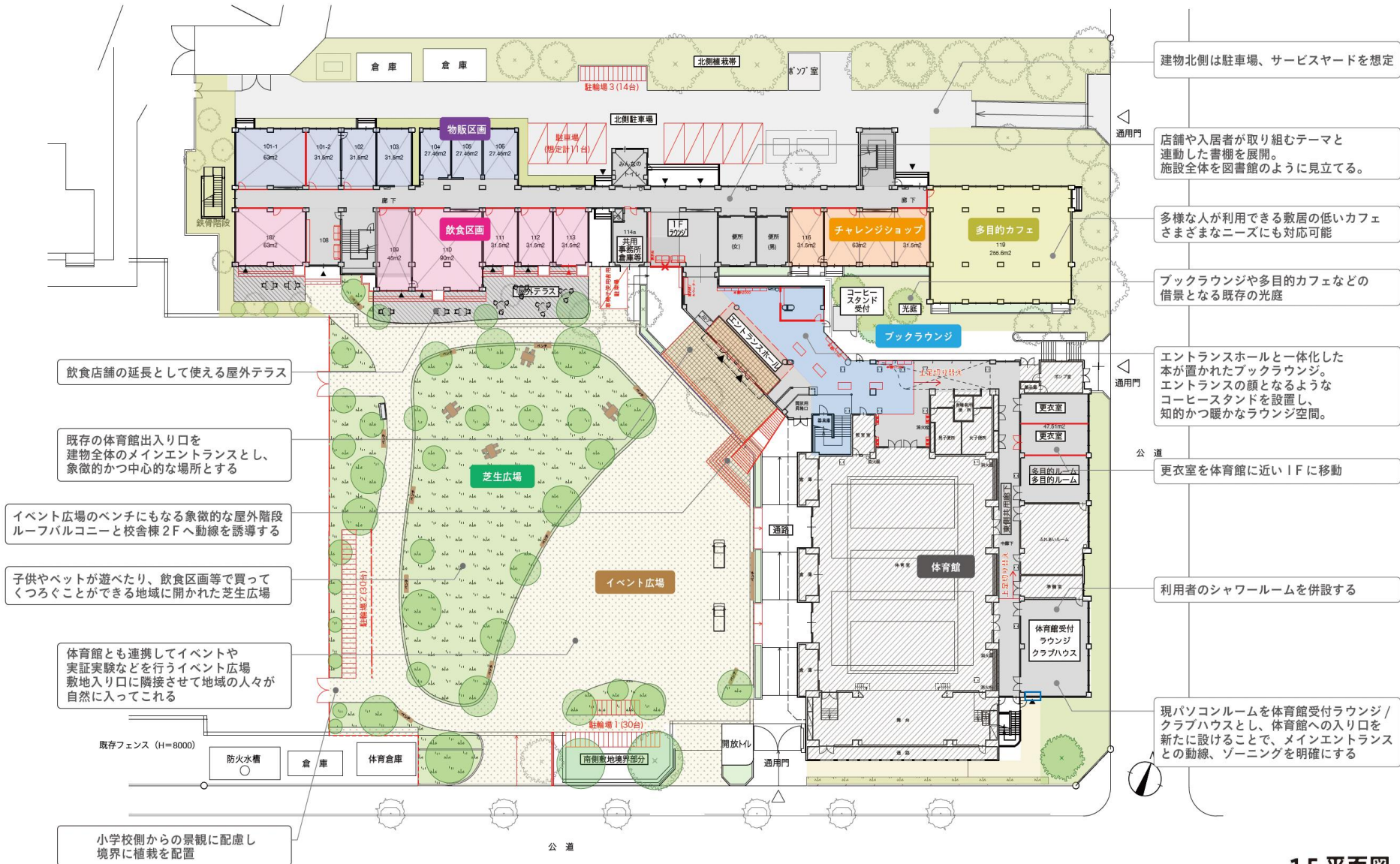


広場から校舎を眺める



体育館エントランス





1F 平面図



